

創立60周年記念に寄せて

筑波大学人間系 柘植雅義

筑波大学附属大塚特別支援学校が、このたびの創立60周年記念を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

そして、さらに遡ること明治期に師範学校の附属小学校や附属中学校の中に設置された、今でいう知的障害のある子どもの特別な学級がその起源です。

附属大塚が他の学校に類を見ない歴史と伝統に生まれ、そして、時代時代の要請に敏感であり、さらに将来を確かに見通した画期的な教育を展開し続けてきたことを、誇りに思います。

思い起こせば、私が大学院生の頃、やがて博士論文と繋がっていく最初のデータを取らせていただいたのも確か附属大塚だったと思います。1年間に渡って毎週1回、飯田橋の駅から急な坂道を登って、朝から附属大塚に出向きました。その度に、先生方が温かく迎えてくださり、担当の先生が（今から思えばとてもお忙しかったであろうにも拘らず）、子どもたちが下校した後は、教室でVTRを再生しながら、いつも懇切丁寧な指導をしてくださいました。

それから、数十年が過ぎて、縁があって筑波大学に着任し、そして、まさか自分が附属大塚の校長を兼務することになるとは夢にも思っていませんでした。2014年4月から2020年3月まで丸6年の任期満了まで、子どもたちや保護者の皆様や職員の皆様方に変にお世話になりました。それは、数十年前に、自分が学生としてお世話になったことへの恩返しに貴重な機会でもありました。

そのために、着任後は、知的障害教育において世界最高水準を目指すことを標榜し、教員や保護者や学校外の関係者に広く知っていただき、取り組みました。もっと魅力ある学校に育てて、次にバトンを渡していきたいと考えたからです。以前、勤務していた大学で、大学院生のフィールド実習で京都のある大学附属病院を訪問した際、患者さんの待合室や、手術室の前や、NICUの入り口や、事務室の入り口などに、「本病院は、世界最高水準の医療を提供します。」という標語がペタペタとあちこちに掲げられていました。そのことに感銘したことによりますし、高い志を掲げる使命があるだろう、との思いからでした。

最後になりましたが、10年後、50年後、100年後も、この附属大塚が、やはり魅力あふれ、キラッ！と光っていてほしいと思います。

そして、どうしても附属大塚に入学したい、どうしても附属大塚に我が子を入学させたい、どうしても附属大塚で教師として働いてみたい、どうしても附属大塚で研究してみたい、などという声が、これからもずっと、日本はもちろん世界中から聞こえて来続けていますように。

これで、お祝いの挨拶といたします。

締切： 2020年8月31日（月）

原稿サイズ： A4版 1枚

係り： 附属大塚 居林弘和先生